

検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、この度、下記項目につきまして検査内容を変更させていただきますので、取り急ぎご案内する次第です。

誠に勝手ではございますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承の程お願い申し上げます。
敬具

記

■検査項目/変更内容

頁	項目コード	検査項目名	変更内容	新	旧
-	5990	ノロウイルス RNA	検査項目名	ノロウイルス RNA 定性	ノロウイルス RNA
			容 器	容器:29(採便容器、培地なし)	容器:55(感染症遺伝子増幅検査用容器)
			基 準 値	検出せず	(なし)
			所 要 日 数	3~10日	4~7日
			備 考	他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 依頼件数によって、所要日数が変動いたします。	他項目との重複依頼は避けてください。 本ウイルスは複数の遺伝子型があります。その検出には代表的なプライマーを用いておりますが、本ウイルスは変異の頻度が高いため、増幅領域の変異が出た時には検出されない場合があります。

※その他の検査要項に変更はございません。検査要項の詳細は裏面をご確認下さい。

■変更期日

- 2017年10月31日(火)受付日分より

以上

ノロウイルス RNA 定性

リアルタイムRT-PCR法により、ノロウイルスのG I /G IIを高感度に検出します

ノロウイルスは、冬季を中心に流行する感染性胃腸炎の主な原因として知られていますが、近年、調理従事者等による食品の二次汚染が原因と思われるウイルス性食中毒が増加傾向にあります。

ノロウイルスは手指や食品を介して体内に取り込まれ、腸管で増殖し、糞便および吐物中に大量に排出されます。ノロウイルスの排出は症状消失後も数週間にわたり継続すること、不顕性感染者が一定数存在しており、発症者と同様に糞便中からウイルスが検出されることが明らかになっており、新たな感染源となる可能性が指摘されています。

検査としては、イムノクロマトグラフィー法やELISA法による抗原検査が広く普及していますが、調理従事者等の非発症者を対象とした場合は、より高感度な検査法を用い、ノロウイルスを保有していないことを定期的に確認することが望ましいとされています。

本項目は、リアルタイムRT-PCR法により、糞便中に存在するノロウイルスのG I およびG IIを同時に検出いたします。最小検出感度は1反応あたり50コピーであり、概ね便1gあたり 10^5 オーダーのノロウイルスを検出可能です。調理従事者等の衛生管理や、感染性胃腸炎の診断補助にご活用ください。

▼疾患との関連

感染性胃腸炎
調理従事者の衛生管理

▼関連する主な検査項目

ノロウイルス抗原
ロタウイルス抗原

■検査要項

項目コード	5990
検査項目名	ノロウイルスRNA定性
検体量(容器)	糞便 0.5g (容器:29)
保存方法	凍結
検査方法	RT-PCR(リアルタイムPCR)
基準値	検出せず
実施料	未収載
判断料	
所要日数	3~10日
備考	他項目との重複依頼は避けて下さい。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 依頼件数によって、所要日数が変動いたします。
検査委託先	エスアールエル (→5)

■参考文献

Kageyama T, et al : J Clin Microbiol 41 (4) :1548~1557, 2003. (検査方法参考文献)
厚生労働省:大量調理施設衛生管理マニュアル(最終改正:平成29年6月16日付け生食発0616第1号), 2017. (臨床的意義参考文献)

■新旧二法の相関

G1+G2

		旧法	
		検出せず	陽性
新法	検出せず	27	0
	陽性	1	23

一致率:98.0% (n=51)

G1

		旧法	
		検出せず	陽性
新法	検出せず	27	0
	陽性	0	2

一致率:100% (n=29)

G2

		旧法	
		検出せず	陽性
新法	検出せず	27	0
	陽性	1	21

一致率:98.0% (n=49)